震動家 本国貧民

土味方之後胤土間守
堅吉之末孫由良昏
夜之十八代

源八地震由 出太守
元来地下ノ住発且依
土命震出セシ方於伏
見宮ヲ震テ討死ス

周照 沢木大九郎
家ヲ震テ討死

焼有 同 烟九郎

女子 昌照罪郎室

鳴強 地賀椎頭

鳴高 改震動
早世

猶高 昆布強郎

音高 分飛騨守
中少

女子 遠敏郎室

音鳴 大炊頭
正四ツ時

静鞆 隼久

忠震 越後守
従五時

女子 井邪左門村麿室

潰 雨野五七郎
於小由原討死

藏発 炮術師
時強 信乃守

某 嘉永年中於上方
討死
時太郎早世

上ヶ川つり 大火大ケ所
大震間 正四ツ時 安政二年十月二日家崩

震動大炊頭音鳴

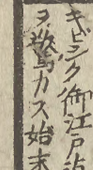
御内家曲利無歟孫養女
聖 卯年支
一通月卯日 禁府

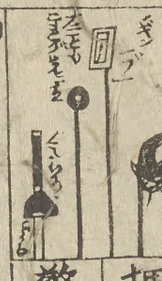
責御米御小屋之
御蔵五ケ所立 御救

御嫡 震動聿久静鞆
御内家

令地ゟゝ震難筈

我本枝ゟゝ天びん 棟ゟゝ





夜中隠岐 所左エ門
地鳴強大夫
伊丹家蔵
今田少之允
鳶野

内野糸理
跡用心
大蔵
伊賀糸修理

居守留
土方煉蔵
笘屋寒七
野陣番
百疾困ゟ更
七ゟゝ
震動ゟ更
安ゟゝ
一夕ゟ

鯰江飢庫

経 安心山 敗蓮寺

動土宗 地震破

高三方五千余石 居所 崩州土下郡潰家口

往古ヨリ度々震ト雖モ豊富治代伏見辺大地震元禄 以後越信両ケ国ニ鶏ニ此時死セル者数シレズ又嘉永七年上方筋キヨシク御江戸近辺カスベ甚シ夫ノミナラズ安政二イタリ又々御江戸ヲ驚カス始末重々不埒至極二付大炊頭音鳴以後代々禁之

▲俄の地しん有時の人皆狭うろたへ纔ニ夫人間のみ悩て
足腰を定めべく一代のうけなおくて叶ぬ記載家他所ゟ
そも方位と地の利 右地の容体を考ニとゝめべく

揺ニ震大雷失火洪水等の障ニ是非あり時に酒を呑ゟ
地震大雷失火洪水等の障ニ是非あり時に酒を呑ゟ

▲地震大雷失火洪水等の障ニ是非あり時に酒を呑ゟ
山や谷さき地ゝみて地ゝれ雑ゞる時の地ゝん正ゝ強ゝ
江戸の地い山もゝゝ耕ゝ陸ゝ海川の形も変ゝ水辺ゝ
有ゆゝ地ゝれ平生ゟゝ心ゝ構ゆゝ到ゞゝ大地ゝん

よゝ分別ゟゝ出ゞゝ九死の場ゟゝて一生ゝ拾ゟゝ足腰ゟゝ立ゝ
ゟゝ

突波附水の心得

突波ゟゝ二ツゟゝ地ゝん揺ゝ海底ゝ掘動ゝ海水絶ゝ立ゟゝ
ゝ一時ゟゝ引ゟゝ又ゝ来ゝ
よゝゟゝ一人ゟゝ成ゝ
ゟゝ

中川 津波ゟゝ
絶ゝ生ゝ
と脱ゝゝ
ゝ
ゝ

地震大雷失火洪水等の障ニ是非あり時に酒を呑ゟ